

## ホームページのご案内

グループ企業紹介やIR情報など、当社の最新情報をわかりやすくお伝えしています。ぜひご覧ください。



トップページ

ドンキホーテHDがよくわかるコンテンツを揃えています。

<http://www.donki-hd.co.jp/>



IR情報

事業内容や強みをわかりやすく解説しています。

最新IR資料、月次売上高速報を閲覧できます。

<http://www.donki.com/group/ir/>

### 株主メモ

事業年度	毎年7月1日から翌年6月30日まで
定時株主総会	毎年9月
定時株主総会基準日	6月30日 ※その他必要があるときは、あらかじめ公告して定めます。
剰余金の配当の基準日	6月30日 及び中間配当金の支払を行う場合は12月31日といたします。
株主名簿管理人／特別口座の口座管理機関	〒100-8212 東京都千代田区丸の内1-4-5 三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	〒137-8081 東京都江東区東砂7-10-11 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 電話 0120-232-711 (フリーダイヤル)
公告方法	電子公告により行います。ただし、電子公告を行うことができない事故その他のやむをえない事由が生じたときは、官報に掲載する方法により行います。
公告掲載 URL	<a href="http://www.donki.com/b/ir/">http://www.donki.com/b/ir/</a>

### ご注意

1. 株券電子化に伴い、株主さまの住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関（証券会社等）で受け付けています。口座を開設されている証券会社等にお問い合わせください。
2. 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっていますので、左記特別口座の口座管理機関（三菱UFJ信託銀行）にお問い合わせください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店でもお取次ぎいたします。
3. 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

当社ではIR情報をホームページにて開示しています。ぜひご利用ください。



株式会社  
**ドンキホーテ HLDGS**

〒153-0042 東京都目黒区青葉台2-19-10  
TEL.03-5725-7532 FAX.03-5725-7322  
<http://www.donki-hd.co.jp/>

IR情報ホームページ

<http://www.donki.com/group/ir/>

すべては  
**お客さまのために**  
私たちドン・キホーテグループの  
決意です

株主・投資家の皆さまへ  
**第34期 中間株主通信**

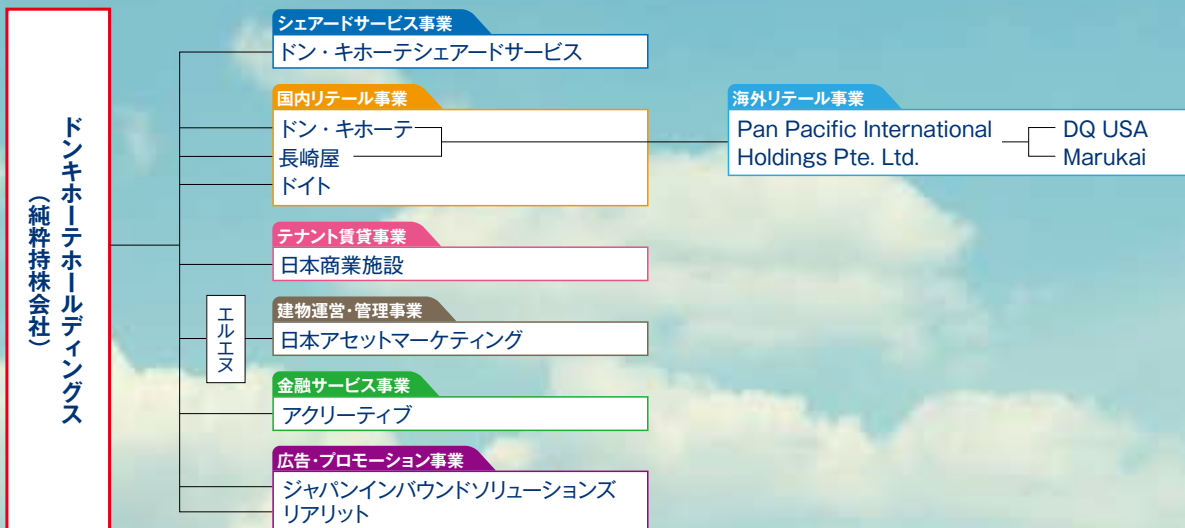
2013年7月1日~2013年12月31日

株式会社  
**ドンキホーテ HLDGS**

# ドンキホーテホールディングス誕生

2013年12月2日、株式会社ドン・キホーテは  
株式会社ドンキホーテホールディングスとして  
新たなスタートを切りました。

## ドンキホーテ HLDGS



### ドン・キホーテグループの事業領域

#### ドンキホーテ

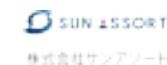
家電製品、日用雑貨品、食品、時計・ファッション用品、  
スポーツ・レジャー用品等の販売を行う  
ビッグコンビニエンス&ディスカウントストア事業



売掛債権の早期買取を行う金融サービス及び  
支払業務のアウトソーシングサービス事業

#### 長崎屋

総合小売業



損害保険の代理店及び生命保険の募集に関する事業



DIY用品を中心とした小売業



JAPAN ASSET MARKETING Co., LTD.  
日本アセットマーケティング株式会社

商業施設の管理・運営・保守・メンテナンス及び  
ソーシャルコンテンツプロバイダ事業

#### 日本商業施設

Japan Commercial Establishment

商業施設の建設・管理・運営、テナント賃貸事業



米国ハワイ州における総合ディスカウントストア事業

#### D-ONE

不動産開発事業



米国カリフォルニア州及びハワイ州における  
スーパーマーケット事業



マーケティング事業



観光立国実現のための訪日観光・国際交流の推進、  
プロモーション事業

# 株主・投資家の皆さまへ

株主の皆さまには、平素より格別のご支援を賜り厚く御礼申し上げます。ここに株主の皆さまへのご挨拶と、2014年6月期第2四半期累計期間（2013年7月1日～12月31日）の業績に関するご報告をいたします。



代表取締役会長 兼  
社長 兼 CEO  
安田 隆夫

## ■ ご挨拶

当第2四半期累計期間における日本経済は、政府による各種政策の下支え効果により、景気の回復傾向が続くことが期待された一方で、2014年4月から実施される消費税の引き上げや海外景気の下振れリスクなど、先行きに対する不透明な状況が続きました。

小売業界においては、雇用・所得環境の改善や消費税引き上げ前の駆け込み需要などにより個人消費は回復傾向にありながらも、生活必需品の原価上昇リスクなどが生じており、多様化するニーズはもとより、節約志向に対しても迅速で柔軟に対応する「変化対応力」がますます重要になってきました。

こうした中、ドン・キホーテグループは、純粋持株会社体制へ移行し、新たな経営体制をスタートさせるとともに、「顧客最優先主義」を実践する業態創造企業として、お客さまに「感激」していただける店舗運営実現に努めてまいりました。その結果、当第2四半期累計期間も増収増益を達成することができました。これもひとえに株主の皆さまのご支援のおかげと、心より感謝申し上げます。

株主の皆さまにおかれましては、今後も引き続き変わらぬご支援をお願い申し上げます。

## ■ 当第2四半期累計期間の取り組みと業績、配当について

グループ中核の株式会社ドン・キホーテは、当第2四半期もお客さまの行動や趣向の変化にあわせ、「最適なセールスマックスの追求」を徹底し、お客さま支持率を高めてまいりました。また、地方都市における「New MEGA」業態の店舗力を向上させ、ファミリー層の需要喚起に注力したほか、都市部においては「首都圏一等地戦略」を展開し、業態精度の向上と収益改善を着実に進めました。グループ企業の株式会社崎屋、ドイト株式会社、Don Quijote (USA) Co., Ltd.においても、地域密着戦略が功を奏し、お客さまリピート率が高まるなど、いずれも好調な結果を出

すことができました。

こうした取り組みの結果、当第2四半期累計期間の連結業績は、売上高3,033億円（前年同期比4.7%増）、営業利益205億円（同9.8%増）、経常利益211億円（同10.8%増）、四半期純利益130億円（同10.6%増）となりました。

なお、中間配当は、前期に引き続き1株当たり10円とさせていただきます。今後も経営基盤の強化、さらに事業改革及び財務体質の強化を図ることにより、株主の皆さまに対する安定的な利益還元に努めてまいります。

### 業績ハイライト

売上高	3,033億円	総資産	4,408億円
営業利益	205億円	純資産	1,829億円
四半期純利益	130億円	1株当たり四半期純利益	166.94円

## ■ 消費税増税に対する考え・施策について

2014年4月、さらに2015年10月に実施される消費税率の引き上げは、流通小売業界にとって大波乱を巻き起こす要因であり、かつてない乱世の幕開けを意味します。しかし、こうした激動と変化の時代は、私たちドン・キホーテグループにとって、独自の強みを発揮できる最大のチャンスだと考えています。それは、当社が1989年の創業以来、不況やデフレ時代において培ってきた「変化対応力」を最大限に発揮できるからです。特に、店舗運営面における迅速、かつ柔軟な変化対応力は高水準の営業利益率の維持を可能にしており、このような強みを発揮すれば消費税

増税時の減益リスクを最小限に抑えることも可能であると考えています。さらに、ドン・キホーテが日本国内において数少ない総合ディスカウントストア業態であるという点も、消費税増税となればなおのこと、商品を安く買いたい消費者の心理に適切にお応えすることができるので、他の業態と比べて有利に働くと考えています。

こうした当社独自の強みを遺憾なく発揮することで、取り巻く環境が変化してもなお、継続的な成長を続けていけると確信しています。

## ■ 純粋持株会社体制への移行について

今後の小売業界は、競争がますます激化して未曾有の大再編時代を迎えることが予想されます。こうなると、M&Aの巧拙が成長戦略の決め手となってまいります。ドン・キホーテグループは、これまで株式会社長崎屋やドイツ株式会社など、複数のM&Aを実行しており、2013年は、米国において日系スーパーのマルカイコーポレーションを買収しました。今後の海外展開も含めたM&Aなどにおいて、より大胆かつ柔軟で迅速な意思決定と事業推進を行おうと思えば、各社の独立性を担保できる持株会社体制が優位であることに間違いありません。そこで、株式会社ドン・

キホーテは2013年12月2日より純粋持株会社体制に移行し、株式会社ドンキホーテホールディングスとして新たなスタートを切りました。各事業会社が持つ独自のオペレーションやノウハウ、アミューズメント性は、当社グループにとって大競争時代に向けた大きなアドバンテージであると確信しています。

## ■ 今後の取り組み方針と通期業績予想

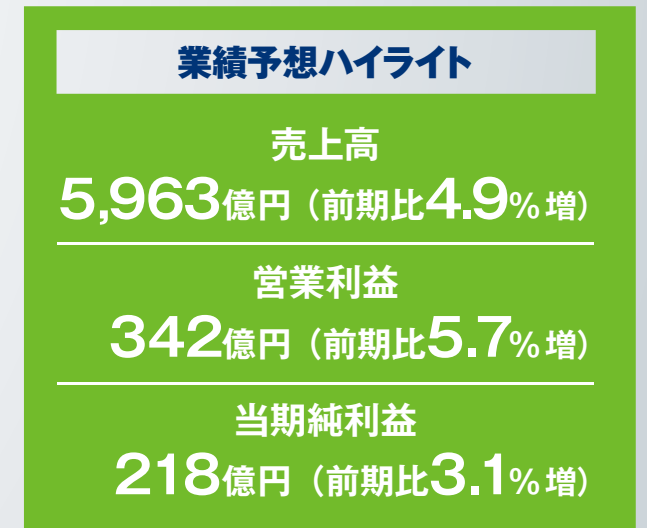
下半期は、引き続きお客さま満足度の最大化を追求しながら、継続的な成長と安定を目指してまいります。営業方針としては、消費税増税を見据えながら変化対応力を発揮し、商圏内競争力を高めて、ブランド力の底上げを図ってまいります。また、お客さまニーズに応える商品編成とサービスレベルの向上に努めてまいります。商品戦略としては、商品ポートフォリオの改廃と進化を図り、生活必需品の品揃え充実と徹底したEDLP (Everyday Low Price) の推進、付加価値の高いディスカウント体制の一層の強化を進めてまいります。

通期の連結業績予想は、売上高5,963億円（前期比4.9%増）、営業利益342億円（同5.7%増）、経常利益348億円（同4.8%増）、当期純利益218億円（同3.1%増）を見込んでいます。

## ■ 株主・投資家の皆さまへのメッセージ

消費税増税後の販売動向については不透明な状況が拭えませんが、価格競争力に絶対の自信を持つドン・キホーテグループは、これまで培ってきたディスカウント体制を発揮し、30期連続増収増益という目標達成に向け邁進する所存です。

今、私の胸中にあるのは、「良い会社をつくりたい」という思いです。「良い会社」ができなければ当社グループ



が未来永劫存在し、社会に貢献する企業として存続し続けることはできないと考えています。この想いを実現させるため、今後も「顧客最優先主義」を貫いた事業展開を進めるとともに、強固な組織づくりに励んでまいります。

株主の皆さまには、これからも当社グループを末永くご支援いただきますよう心よりお願い申し上げます。



## 副社長インタビュー

## 代表取締役副社長 兼 COO 大原 孝治

## これまでの経歴

まったく異なる3つの業態に携わり、推進してきた経験を活かし、次は、次世代へのバトンタッチを見据えた組織作りへ

私は、ドン・キホーテが府中店（第1号店）しかない時代に入社し、安田会長とともに、今日のドン・キホーテ業態を創り上げてきました。仕入れから販売までの権限を与えられ、自らお客さまの目線に立ち、欲しいものを欲する価格で提供する店創りを徹底しました。試行錯誤を重ねることで、次第に商品が売れていく姿を実感しながらも、「もっとお客さまに喜んでいただくにはどうすれば良いだろう」ということにひたすら情熱を注いだ日々でした。

2005年以降は、まったく新しいビジネスとして、インターネットなどを通じたマーケティング及び広告事業を行う株式会社ドンキコム（現・株式会社リアリット）を立ち上げたほか、不動産賃貸事業を展開していた株式会社パウ・クリエーション（現・日本商業施設株式会社）の立て直しを図るなど、多様な領域で経験を積んできました。

そして、今、ドン・キホーテが未来永劫イキイキと生きていくエクセレント・カンパニーとして次世代にバトンタッチしていくために、これまで培ってきた多面的に物事を見る力を発揮すべき役割を与えられたと認識しています。

## プロフィール

1995年9月	当社 取締役第2営業本部長
2005年1月	株式会社リアリット 代表取締役社長就任（現任）
2009年4月	日本商業施設株式会社 代表取締役社長就任（現任）
2009年9月	当社 取締役兼 CIO 就任
2013年4月	当社 取締役副社長兼 COO 就任
2013年11月	当社 代表取締役副社長兼 COO 就任（現任）
2013年12月	株式会社ドン・キホーテ 代表取締役社長就任（現任）

我々から次世代へ、次世代から未来に。  
ドン・キホーテの強さを伝承できる組織を創るために。

## これからの役割・ミッション

世の中の変化を先取りし、消費者のニーズに応え続ける企業であり続けるために

企業は、時代の変遷・変化に柔軟に対応する経営を続けられれば、いつまでも生き続けることができると考えています。「やりがいを持ってワクワク・ドキドキする仕事ができる体制を構築しつつ、日々の変化にも対応し、常に新しいことに挑戦するベンチャースピリットを忘れない」、そうした意識が隅々にまで浸透した企業は変化に強く、生命力があふれています。

ドン・キホーテの強みは、この「変化に対応する」ことの重要性を従業員全員が認識しているところにあります。この強みにさらに磨きをかけるという意味でも、「変化を受け入れることは特別なことではなく、変化しないことの方が怖いんだ」という意識付けを徹底的に行うこと、それが、今の私に与えられたミッションであると思っています。

## 最後に

ドン・キホーテが持つ可能性は、まだまだ過小評価されていると思っています。今後も時代の流れに乗り遅れないように果敢な挑戦を続け、変化対応できるドン・キホーテを創っていきますので、ぜひご期待ください。



# 新店舗出店加速

全国各地で出店を拡大。通期で20店舗の新規出店を目指します。

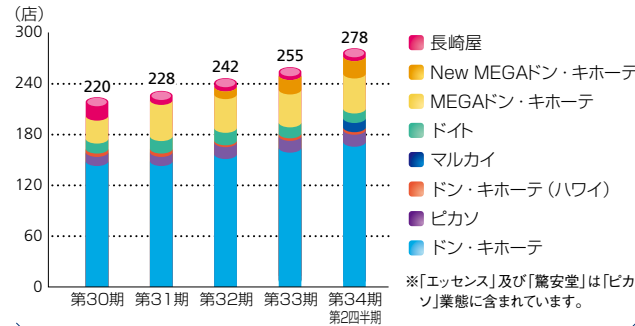
当第2四半期累計期間におきましては、ドン・キホーテ業態7店舗、MEGAドン・キホーテ業態5店舗、小型店のピカソ1店舗の合計13店舗を新たにオープンしました。その結果、店舗ネットワークは国内264店舗、海外（米国）14店舗、合計278店舗体制となりました。

今後も、潜在的の高い「都心エリアにおけるドン・キホーテ業態」や「地方都市におけるMEGA業態」などあらゆる選択肢の中から、慎重かつ大胆に店舗開発を進めてまいります。

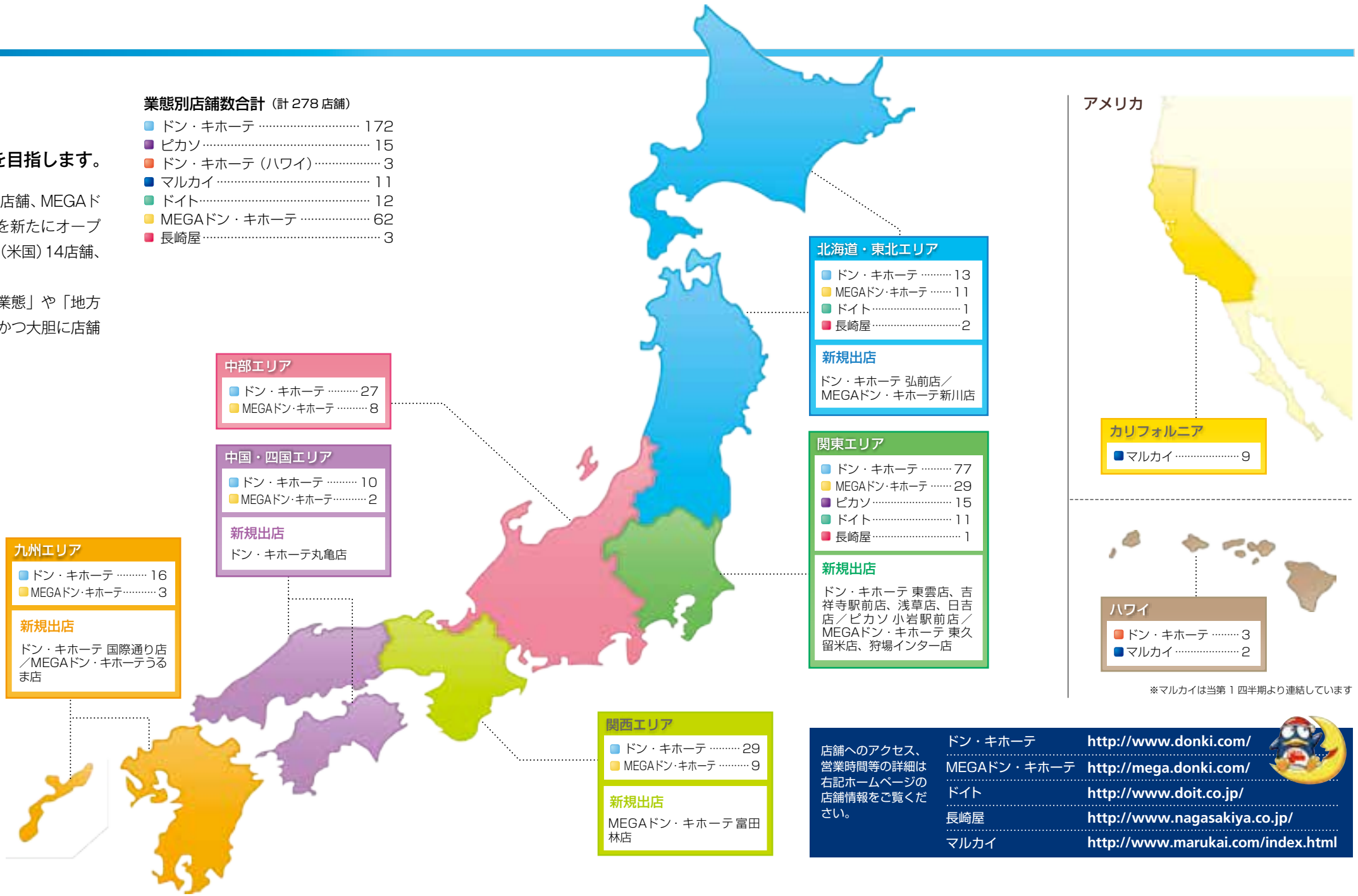
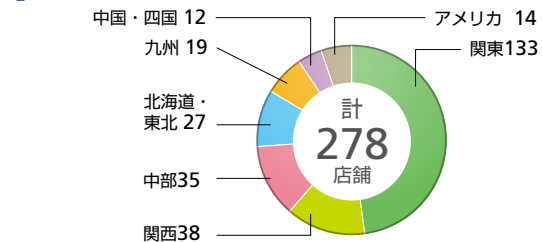
業態別店舗数合計（計278店舗）

- ドン・キホーテ ..... 172
- ピカソ ..... 15
- ドン・キホーテ（ハワイ） ..... 3
- マルカイ ..... 11
- ドイト ..... 12
- MEGAドン・キホーテ ..... 62
- 長崎屋 ..... 3

業態別店舗数推移



エリア別店舗数



店舗へのアクセス、営業時間等の詳細は右記ホームページの店舗情報をご覧ください。	ドン・キホーテ	<a href="http://www.donki.com/">http://www.donki.com/</a>
	MEGAドン・キホーテ	<a href="http://mega.donki.com/">http://mega.donki.com/</a>
	ドイト	<a href="http://www.doit.co.jp/">http://www.doit.co.jp/</a>
	長崎屋	<a href="http://www.nagasakiya.co.jp/">http://www.nagasakiya.co.jp/</a>
	マルカイ	<a href="http://www.marukai.com/index.html">http://www.marukai.com/index.html</a>

# 注目の新店舗をご紹介します。

## ドン・キホーテ浅草店



夜のネオンも必見!

### 地域と共に「興行の街」の再生を担う店舗

2013年12月、興行街としての街のにぎわい再生を目指す東京・浅草六区に「ドン・キホーテ浅草店」がオープンしました。演芸場風に装飾された店内には、ドン・キホーテならではの商品に加え、地元のお客さま向けの生鮮食品や、観光客向けのお土産など、豊富な商品を取り揃えています。

同店の出店は、地元商店街が進める『浅草六区再生プロジェクト～For the future of the Rock～』の一翼を担う出店で、浅草では珍しい深夜営業を実施するなど、街の活性化につながる取り組みに地元からも大きな期待が寄せられています。

### 浅草店の3つのコンセプト

浅草店は、商圈特性に合わせて「地域密着」「観光客需要」「エンターテインメント発信」の3つのコンセプトを掲げています。

浅草という街の雰囲気店内に取り込みながら、地元のお客さまのリクエストにお応えして青果・精肉コーナーを設けるなど、「地域密着」の取り組みを推進して、地域最安値を目指した驚安価格の商品を取り揃えています。

また、外国人観光客向けの日本のお土産や、国内観光客向けの東京土産の品揃えを充実させるなど、観光客に対応した店舗づくりを行っているほか、店内にはファミリーレストランやカラオケ店、劇場を併設し、東京一の興行街として賑わった浅草六区にふさわしい、多くの方々から愛されるエンターテインメントの発信を目指しています。



## ドン・キホーテ吉祥寺駅前店



### 幅広い層のお客さまから愛される店舗を目指す

2013年11月、「住みたい街・お出掛けしたい街」として人気の高い東京・吉祥寺駅前に「ドン・キホーテ吉祥寺駅前店」をオープンしました。店内の装飾は、幅広い層のお客さまにショッピングを楽しんでいただけるよう、動物園をモチーフにしており、動物のイラストや緑を店内の随所に配置しています。

全8フロアに、ドン・キホーテならではの約45,000アイテムをバランスよく取り揃えています。



### 沖縄の旗艦店として、地域にトレンドを発信

2013年11月、沖縄県最大の繁華街として知られる那覇市の国際通りに、「ドン・キホーテ国際通り店」をオープンしました。同店は、観光客向けにお土産品を強化したほか、エントランスに「美ら海」をイメージした大型水槽を配置し沖縄らしさを演出。また、屋上にフードコート「ガジュガジュ・ガーデン」を設置することで、地元のお客さまに楽しんでいただける店舗づくりに取り組んでいます。

ブランド商品、アパレル、美容グッズなど約60,000アイテムを取り揃え、トレンドに敏感な地元のお客さまへの「流行発信地」としての役割を担うとともに、シニア層の方々にもご来店いただける店舗づくりに励んでまいります。



## ドン・キホーテ国際通り店



## メーカー様との「お・と・り・く・み」。コラボレーション商品

情熱価格 × LEC Life; Enjoyment & Convenience

水の激落ち シリーズ



お掃除グッズでおなじみLEC様の「激落ち」シリーズが情熱価格とコラボレーション。お徳用サイズのメラミンスポンジ「激落ち MEGA キング」は発売1年半で販売数26万個を達成しました。

情熱価格 × アイリスオーヤマ

ビッグ庫内・温度調節オーブントースター



25cmピザがまるまる、トーストだったら一度に4枚焼ける広口サイズのオーブントースター。温度調節も可能なので料理の幅が広がります。アイリスオーヤマ様との共同開発です。

情熱価格 × ORION

USB接続録画対応 39型フルハイビジョン LED液晶テレビ



13mmのスリムベゼルを採用しコンパクトに仕上げ、LEDバックライトパネルが消費電力も抑えます。有名メーカーの商品製造も手がける国内メーカー、オリオン電機様との共同開発です。

情熱価格 × ダイショー

味付塩こしょう



調味料のエキスパートであるダイショー様との共同開発です。看板商品の「味・塩こしょう」は一家に1本は置いておきたい名品です。

情熱価格 × FRUTA FRUTA

アサイーバナナ&カシスオレンジ



ブラジル・アマゾン原産のスーパーフルーツ「アサイー」を広めるフルッタフルッタ様のアサイードリンクをPB化。知る人ぞ知る隠れた人気ブランドをお楽しみいただけます。

情熱価格 × Kabuto

セミジェットヘルメット



競技・プロ用ヘルメットも製造するKabuto様との共同開発。こだわりのデザインと安全性は、間違いなくおすすめです。

貫く顧客最優先主義。お客さまニーズの変化に対応しながら、いつも安く!便利!楽しい!を実現します

13~14ページの掲載商品は  
1. 店舗によって取り扱いがない場合もあります。  
2. 表示価格は消費税5%を含めた税込価格ですが、消費税増税後は、販売店舗によって異なる場合がありますので、あらかじめご了承ください。

2011年8月~2013年12月で  
**310,000**  
個突破!

¥598



**パルメザンチーズ 227g**  
定番ナショナルブランドに対し価格を抑えてお得感を高めました。たっぷり使えてお求めやすく、満足感が高い一品です。

2012年12月~2013年12月で  
**12,000** 台突破!

¥4,950



**3枚プレート電気グリル鍋**  
たこ焼き、鉄板、すき焼き鍋の1台3役でご家庭での楽しさを演出する、ドンキ流マルチ家電のひとつです。

2012年1月~2013年12月で  
**111,000** 個突破!

¥298



**からだ想いの十六穀米 25g×8袋**

ごはんに「ちよい足し」するだけで栄養価アップ!お手ごろ価格に抑えて気軽に試せる健康食品です。

2010年5月~2013年12月で  
**150,000** 個突破!

¥590



**うちももシェイパー**

手軽で十分に効果が実感でき、幅広いお客さまからご支持をいただいている人気商品。ちょっとしたプレゼントにも最適です。

2012年10月~2013年12月で  
**69,000**  
台突破!

¥2,950  
(Sサイズ)



**超音波式加湿器 レインボーデュー**

7色に光るLEDライトがインテリアとしても美しいアロマ付き加湿器。遊び心ある機能が受けてヒットしました。

2011年7月~2013年12月で  
**188,000**  
本突破!

¥598



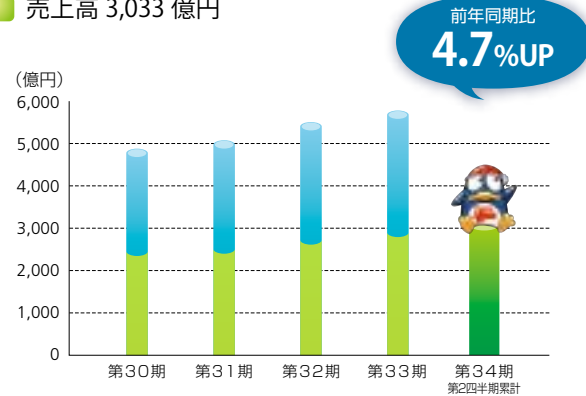
**高浸透保湿ヒアルロン酸化粧水**

ヒアルロン酸配合でたっぷり潤う化粧水。ふだん使うものだからこそ安くしたいものを。お客さまのニーズに寄り添います。



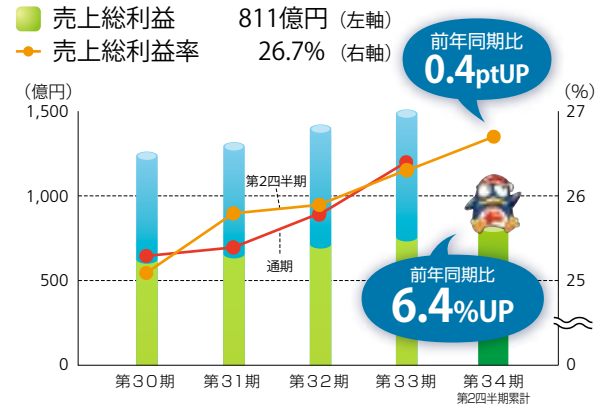
売上高

売上高 3,033 億円



消費税増税後のシェア拡大に向けた取り組みを進めるとともに、業態精度の向上と収益改善を着実に進め、新商品の発掘や提案力で店舗を活性化させた結果、売上高は3,033億円(前年同期比4.7%増)となりました。

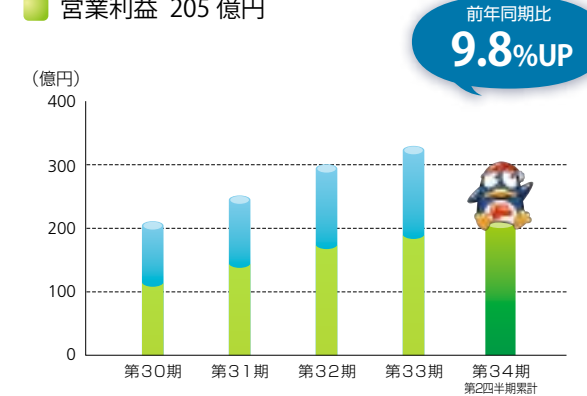
売上総利益／売上総利益率



消費税増税を見据えた商品構成の見直しと改廃を進めて在庫水準の適正化を追求した結果、売上総利益は811億円(前年同期比6.4%増)となりました。売上総利益率は、前年同期比0.4ポイント増加し、26.7%となりました。

営業利益

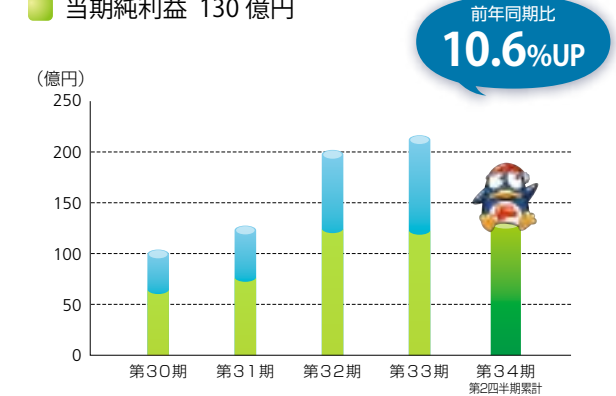
営業利益 205 億円



一部の高単価商品の縮小とともに滞在在庫を積極的に処分した一方で、PB商品を中心とした採算性の良い商品の拡充を進めて利益拡大に取り組んだ結果、営業利益は205億円(前年同期比9.8%増)となりました。

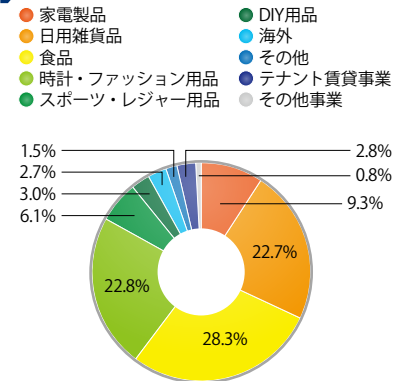
当期純利益

当期純利益 130 億円



純利益は130億円(前年同期比10.6%増)となり、営業利益・経常利益とともに過去最高益を更新しました。通期予想では業績見通しを上方修正し、過去最高益更新を見込んでいます。

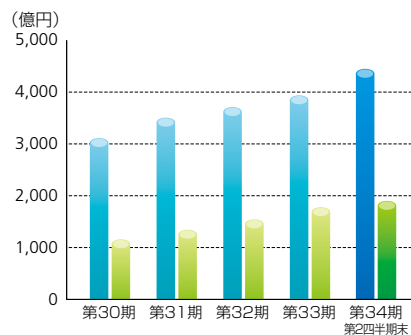
商品分類別売上高構成比



顧客の行動や嗜好の変化にあわせた商品展開により、「食品」や「日用雑貨品」は顧客リピート率が上昇し安定的に推移、全体をけん引しました。

総資産／純資産

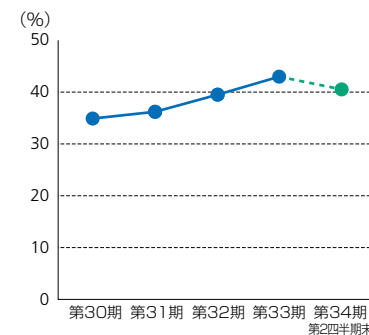
総資産 4,408億円  
純資産 1,829億円



総資産は現金及び預金が237億円増加したことなどにより、前期末比541億円増の4,408億円、純資産は前期末比128億円増の1,829億円となりました。

自己資本比率

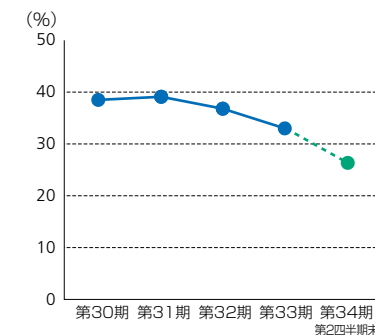
自己資本比率 40.6%



前期末比2.4ポイント減少の40.6%となりましたが、前第2四半期末比は1.8ポイント改善しており、財務的な安定性や健全性は確保されています。

有利子負債依存率

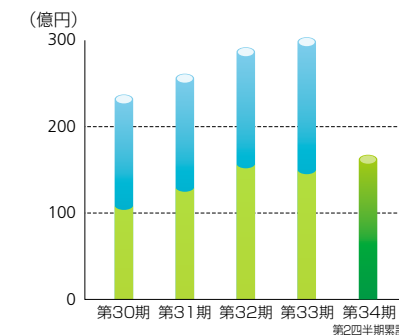
有利子負債依存率 26.4%



有利子負債依存率は前期末比6.3ポイント低下し、26.4%となりました。

キャッシュ・フロー

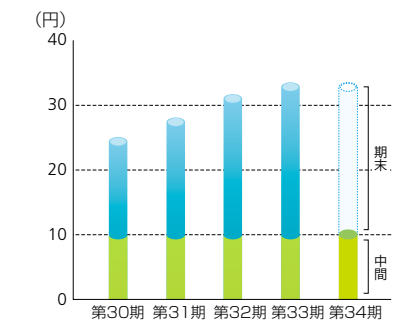
キャッシュ・フロー 163 億円



安定感を増して成長する事業活動に伴って、当第2四半期のCFは163億円となりました。  
※キャッシュ・フロー＝純利益＋減価償却費＋特別損失－配当金

1株当たり年間配当金

1株当たり年間配当金 33円(予想)



当期の中間配当金は1株当たり10円とさせていただきます。期末配当金は1株当たり23円、年間配当金は33円を予定しています。

四半期連結損益計算書(要旨)

(単位:百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (2012.7.1~2012.12.31)	当第2四半期連結累計期間 (2013.7.1~2013.12.31)	増減率
売上高	289,644	<b>303,322</b>	4.7%
売上総利益	76,186	<b>81,075</b>	6.4%
販売費及び一般管理費	57,513	<b>60,571</b>	5.3%
営業利益	18,673	<b>20,504</b>	9.8%
経常利益	19,075	<b>21,135</b>	10.8%
四半期純利益	11,777	<b>13,024</b>	10.6%

四半期連結貸借対照表(要旨)

(単位:百万円)

	前期末 (2013.6.30)	当第2四半期連結会計期末 (2013.12.31)	増減額
流動資産	143,391	<b>177,638</b>	34,247
固定資産	243,231	<b>263,124</b>	19,893
資産合計	386,622	<b>440,762</b>	54,140
流動負債	121,170	<b>145,072</b>	23,902
固定負債	95,274	<b>112,745</b>	17,471
負債合計	216,444	<b>257,817</b>	41,373
純資産合計	170,178	<b>182,945</b>	12,767

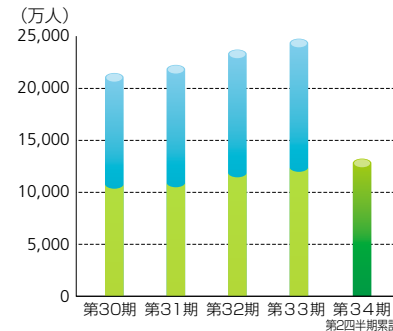
四半期連結キャッシュ・フロー計算書(要旨)

(単位:百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (2012.7.1~2012.12.31)	当第2四半期連結累計期間 (2013.7.1~2013.12.31)
営業活動によるキャッシュ・フロー	28,325	<b>22,624</b>
投資活動によるキャッシュ・フロー	▲15,486	<b>▲16,664</b>
財務活動によるキャッシュ・フロー	653	<b>17,636</b>
現金及び現金同等物の四半期末残高	43,365	<b>60,036</b>

お買い上げ客数

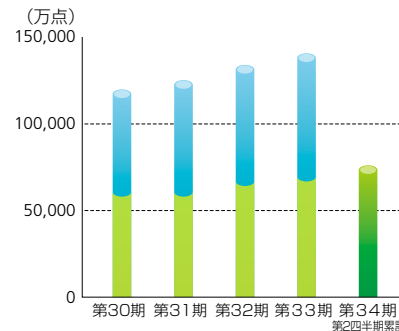
お買い上げ客数 1億2,903万人



当社グループ店舗において、当第2四半期累計期間にご利用いただいた総客数は1億2,903万人を数えました。 ※マルカイを除く

販売商品点数(国内)

販売商品点数 7億3,855万点



当社グループが当第2四半期累計期間にお客さまにお届けした商品点数は7億3,855万点となりました。

会社の概況

商号 株式会社ドンキホーテホールディングス(英文名: Don Quijote Holdings Co., Ltd.)  
 事業内容 グループ会社株式保有によるグループ経営企画・管理、子会社の管理業務受託、不動産管理等  
 本店所在地 東京都目黒区青葉台二丁目19番10号(〒153-0042)  
 TEL. 03-5725-7532 FAX. 03-5725-7322  
 設立年月日 1980年9月5日  
 資本金 210億67百万円  
 従業員数 37名

役員

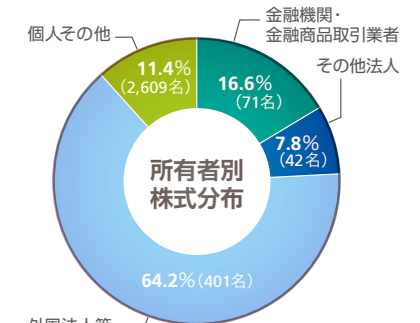
代表取締役会長 兼 社長 兼 CEO	安田 隆夫
代表取締役副社長 兼 COO	大原 孝治
専務取締役 兼 CFO	高橋 光夫
専務取締役	吉田 直樹
取締役	関口 憲司
常勤監査役	大年 康一
常勤監査役	井上 幸彦
監査役	福田 富昭
監査役	本郷 孔洋
監査役	吉村 泰典

(注) 常勤監査役の大年康一氏を除く監査役の4氏は、会社法第2条第16号及び第335条第3項に定める社外監査役です。

株式の状況

発行可能株式総数	234,000,000株
発行済株式の総数	78,192,980株
自己株式の総数	1,244株
株主総数	3,123名

(注) 株主総数は前期末と比較して395名減少しています。



(注) 自己株式(1,244株)は、個人その他に含まれています。

大株主

株主名	持株数(株)	出資比率(%)
ラマンチャ	9,000,000	11.51
安田 隆夫	7,746,000	9.91
株式会社安隆商事	4,140,000	5.29
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)*	3,094,300	3.96
ザ チェース マンハッタン バンク 385036	2,966,700	3.79
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)*	2,607,000	3.33
ジェービー モルガン チェース バンク 380055	2,435,051	3.11
ステート ストリート バンク アンド トラスト カンパニー 505225	2,211,789	2.83
ステート ストリート バンク アンド トラスト カンパニー	2,061,857	2.64
メロン バンク トリーティー クライアンツ オムニパス	2,044,143	2.61

(注) 出資比率は自己株式(1,244株)を控除して計算しています。\*の持株数には、信託業務に係る株式数が含まれています。当社が実質所有株式数を確認できる株主については、その実質所有株式数を上記大株主の状況に反映させています。



詳細は当社ホームページをご覧ください。

ドンキ IR

検索